

第 2 章

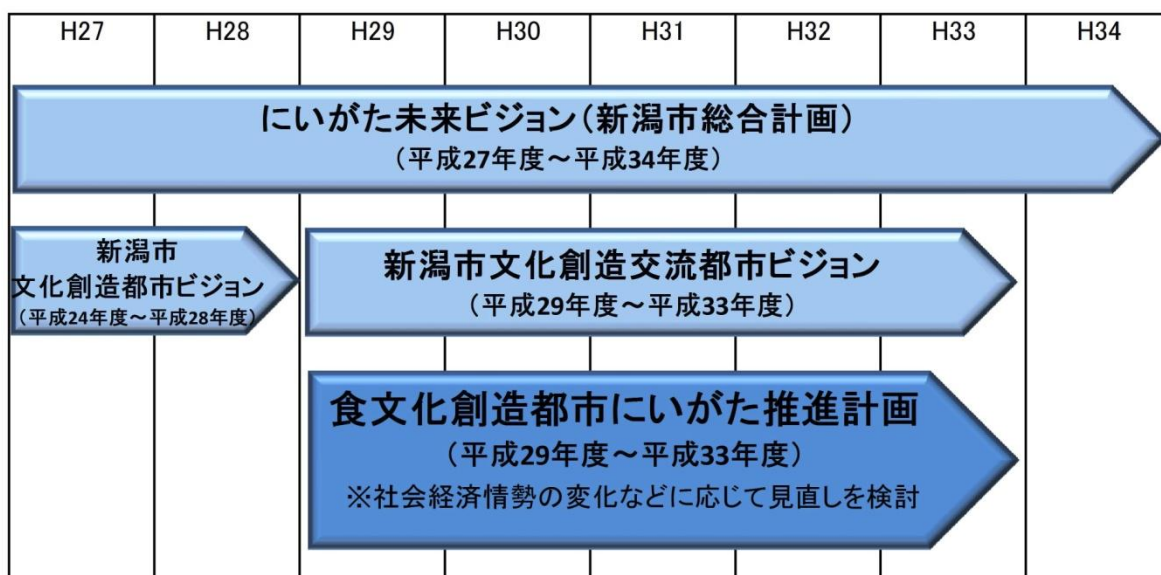
基本的な考え方

1 計画の位置づけ

「食文化創造都市にいがた推進計画」（以下、「本計画」という。）は、本市の強みである食や食文化の素晴らしさに目を向け、これらを産業の活性化や交流の拡大などにつなげ、創造的まちづくりを進める「食文化創造都市にいがた」の取り組みについて計画的に推進するために策定したものです。本市市政運営の最上位計画である「にいがた未来ビジョン（新潟市総合計画）」や、文化を生かしたまちづくりの基本的な方針を示す「新潟市文化創造交流都市ビジョン」を上位計画としながら、「新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「新潟市農業構想」などの関連計画と整合性を図りながら実施します。

2 計画期間

本計画の期間は、平成29年度から平成33年度までの5年間です。なお、関連施策の工程表により、年度ごとに計画の進行状況を把握、点検し、社会経済情勢の変化や進行状況などに応じて見直します。



3 基本理念

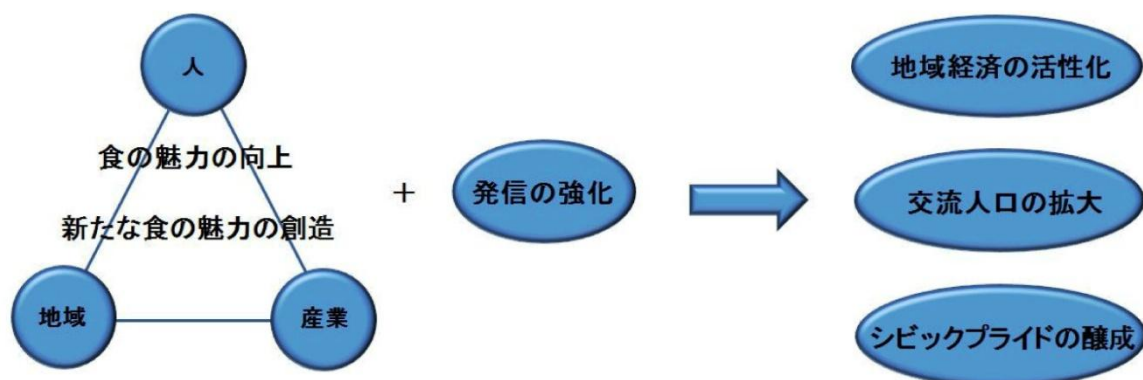
食で選ばれるまち ～「食文化創造都市にいがた」を目指して～

日本有数の農業都市である本市は、米を中心とした豊かな農水産物を産出する一方で、江戸時代から北前船の寄港地として発展した港町で育まれた料亭文化や地酒、発酵食など多彩な食の魅力をあわせ持ち、それぞれが互いに恵みあって本市の食文化が形成されました。

本市は、この田園と港町の共存による多様な食文化を活用し、食と農と文化を融合することで、産業の活性化や交流の拡大などにつなげ創造的まちづくりを進める「食文化創造都市にいがた」の取り組みにより、国内外から食で選ばれるまちを目指します。

わたしたち一人一人が本市の食に対する理解を深め、本市の食文化を再認識すること、また、人、地域、産業が食を通じてつながることで、本市の食の魅力がさらに向上し、新たな魅力も創造されます。加えて、食のまちとしての本市のイメージを向上するため、食の魅力を向上、創造するだけでなく、国内外への発信を強化していきます。

産学官民による「食文化創造都市にいがた」を推進する取り組みや、国内外への発信により、地域経済の活性化を図るとともに、市民が食への誇りを持ちながら生き生きと暮らし、食で選ばれるまちの実現を図ります。



4 目指す将来像

基本理念に基づいて、本市が実現を目指す 3 つの将来像を描き、「食文化創造都市にいがた」の取り組みを推進します。

将来像 1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち

生産者、料理人、消費者など食に関わる「人」がつながり、互いを尊重し、理解を深めています。生産者、料理人など食に関わる人たちは自らの仕事により一層のやりがいを持って働いています。また、暮らしの中に農業体験や豊かな食文化が根付き、一人一人の市民が食に対する誇りや愛着を持ち、生き生きと暮らしています。

将来像 2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち

本市と国内外のさまざまな「地域」がつながり、面的な広がりが生まれるとともに、互いに刺激を与え合い、食の魅力を高めています。食の生産地であり消費地でもある本市では多様な食の楽しみ方が広がっています。また、本市の食の魅力は国内外から注目を集め、新たな交流を生み出すとともに、多くの来訪者が本市の食を楽しんでいます。

将来像 3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち

観光、教育、福祉、文化芸術など、さまざまな「産業」が食でつながり、分野を超えたネットワークが構築されています。各産業において食を活用した新たな魅力が創造されています。また、多くの民間事業者などが食の新たな価値の創造に挑戦し、既存産業の高度化や、さまざまな産業の創出が図られています。